

## 1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

八幡西区役所は、『とどける みつける つなげる 八幡西区』を掲げ、まちの最前線として、住民が真に求める行政サービスを的確に提供し、住民から共感を得られる組織を目指します。

- とどける： 窓口を通じて迅速に、また、必要に応じて直接訪問し、漏れなく的確に、そして、効率的・効果的に、区民一人ひとりに寄り添いながら必要な行政サービスを“とどける”
- みつける： 区民との直接対話や要望・相談の中から「隠れたニーズや本当に求められるもの」を“みつける”
- つなげる： こうしてみつけた課題やニーズを踏まえつつ、区役所の各課が連携し、横断的に事業を実施することで、人と人、人と地域・団体が連携を深めて、持続可能なコミュニティの形成に“つなげる”

## 2 基本情報

### (1) 令和8年度局全体当初予算額

記載不要

### (2) 組織（部名）（R8.4.1付）

総務企画課、コミュニティ支援課、市民課、国保年金課、まちづくり整備課、保健福祉課、保護第一課、保護第二課、折尾出張所、上津役出張所、八幡南出張所

### (3) 所管の政策連携団体

なし

### (4) 所管の主な公共施設

八幡西区役所

出張所：3か所（折尾、上津役、八幡南）

市民センター：34館（青山、赤坂、浅川、穴生、池田、医生丘、永犬丸、永犬丸西、大原、折尾西、折尾東、香月、香月西部サブ、楠橋、熊西、黒畑、黒崎、上津役、木屋瀬、陣原、陣山、竹末、千代、筒井、塔野、中尾、鳴水、則松、引野、星ヶ丘、本城、光貞、八児、八枝）

## 3 令和7年度局区X方針の振り返り

## ○全体の振り返り（総評）

- ・ 八幡西区役所では、『とどける みつける つなげる 八幡西区』を区の組織使命に掲げ、『日本一コンフォートな区役所』の実現に挑戦しました。
- ・ また、コミュニティ内に集う官民の主体のつながりを新たに深め、そのポテンシャルを引き出すことで、区民や施設利用者から寄せられる声をひとつひとつカタチにしてきました。
- ・ 取組にあたっては、単に業務として実施するのではなく、北九州市人財戦略（北九州市職員クレド）を踏まえながら、職員の挑戦を後押しするとともに、区民の目線を重視し、前例にとらわれない発想で進めてきました。
- ・ こうした取組の積み重ねにより、区民や施設利用者、そして区役所で働く職員の感動が少しずつ生まれ始めており、八幡西区政のダイナミズムが一段階引き上がった一年であったと振り返ります。

## ○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

- ・ 『日本一コンフォートな区役所』の実現に向けて、区役所を手続きのために“行く場所”から、自然と“行きたくなる場所”へと変える挑戦を進めました。これは、地域コミュニティのつながりの希薄化が進む中で、家や学校、職場に続く“第三の居場所（サードプレイス）”として、人と人とのつながりが生まれる区役所へと変革していくことを目指し、区役所内でマルシェや角打ち、テラスなどを通じて自然と人が集まり会話が生まれる空間づくりを進めました。さらに、公園でのキャンプ体験や市民センターでのカフェ、企業との異業種交流会など、区役所の外でもつながる交流の機会を広げました。こうした取組を通じて、区役所が地域の人や活動を結びつける拠点としての役割を果たし始めています。
- ・ こうした変革を持続させていくためには、職員一人ひとりの挑戦と成長が欠かせません。そのため、独自の庁内公募制度やZ世代プロジェクトなどを立ち上げ、職員が主体的に挑戦できる環境づくりを進めました。若手職員の参画も広がり、多様な視点から新しいアイデアが生まれるなど、組織の中に挑戦する文化が少しずつ根づき始めています。さらに、こうした挑戦を適切に評価することで、「区民の感動」と「職員・組織の成長」を同時に生み出す好循環につながりました。
- ・ その結果、区民の皆様から「区役所は変わった」「おもしろくなった」といった声が寄せられるなど、区役所の取組に対する共感が広がりつつあります。さらに、八幡西区役所の挑戦に共感し、ともに関わろうとする動きも生まれています。例えば「クロサキスイッチ」では、商店街がポスター掲示や連携イベントの開催に加え、ディズニーパレードに合わせて日曜日営業を行うなど、まちが一体となって新しいにぎわいを生み出す取組が見られました。職員が動き、区民が動き、まちが動く——その連鎖が少しずつ生まれ始めています。

### 3 令和7年度局区X方針の振り返り

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容（理由）・令和8年度に向けた考え

- ・ **すべての項目に着手し、概ね計画どおりに取組を進めてきました。**これからも、区民の声を踏まえながら挑戦を積み重ね、区役所改革を進めていきます。
- ・ 令和7年度は、区役所の取組がまちの共感を得て、徐々に連携の動きが広がり始めた一年でもありました。こうした流れをさらに広げながら、地域団体や企業、学生など、まちを支える多様なチカラとともに、まちづくりを進めていきます。
- ・ **これまで区役所や公共施設といったハードを活用した取組が中心**となっていましたが、**今後は、地域コミュニティの持続可能性を高める観点から、地域活動の担い手や広がりを生み出すといったソフトを重視した取組も展開**していきます。

## 八幡西区X方針 課題一覧【3つのステップ】

八幡西区役所では、住民の生活基盤を確実に守るという行政の原点に基づき、  
『[とどける みつける つなげる 八幡西区](#)』を組織の使命としています。

令和6年度は、まず福祉や公共施設の維持・管理など、日常生活に欠かせない機能を安定的に提供するため、区民対応や窓口環境の改善に取り組み、地域の「安心」を守る基盤を整えました。

これを土台に、令和7年度は『[日本一コンフォートな区役所](#)』というビジョンを掲げました。  
「行政手続きから生活サービス、交流まで多様な機能が快適につながり、誰もが便利さのその先にある心地よさを実感できる区役所」の実現を目指し、地域のポテンシャルを掘り起こしながら、区役所や公共施設を起点に人が集い、つながり、活動が生まれる場を広げてきました。  
この積み重ねが、にぎわいや交流を生み出し、まちの「活力」を高めました。

そして令和8年度は、この流れをさらに一歩進めます。  
『[場所](#)』の変革から『[役割](#)』の変革へと軸足を移し、区役所の中にとどまらず、地域・企業・学校と共に考え、共に動くことで、このまちが心地よさをまとい、「住みやすい」「住み続けたい」「ここで活躍したい」と思える場所を育てていく区役所へと進化させます。  
そのために、課題を行政だけで抱え込まず、地域・企業・学校と力を持ち寄りながら、共に解決に取り組む「共創」の仕組みを創ります。

暮らしや地域の価値を「[守る](#)」から「[高める](#)」、そして「[創る](#)」へ。

『[暮らしを支える行政](#)』から『[地域の力を引き出す行政](#)』、そして『[みんなと未来を動かす行政](#)』へとステップアップしていきます。

## 八幡西区X方針 課題一覧【3つのチカラ】

取組の方向性（3つのステップ）を確かなものにするために必要なのが、パートナーシップ、プロトタイプ、サステナブルです。

**パートナーシップ** – 共に創り、共に動く –

区役所が主導するのではなく、地域・企業・学校などと共に取組を進めます。  
それぞれの強みや経験を持ち寄り、重ねることで、一人では実現できない価値を生み出します。  
「協力する関係」から「共に創る関係」へ。

**プロトタイプ** – 小さく試し、進み続ける –

区民の声を受け止めたら、まずやってみる姿勢で、小さくとも試します。実践し、振り返り、改善する。  
その積み重ねが、取組を着実に前へと進め、確かな変化へとつなげていきます。  
「前例踏襲」から「仮説検証」へ。

**サステナブル** – 続いていく仕組みへ –

取組を一度きりで終わらせません。  
担い手が育ち、関わる人が広がり、地域の中で自然と続いていく仕組みへと育てます。  
「単発・点在する事業」から「循環し、地域に広がる仕組み」へ。

そのすべてに共通するのが、「一歩はみ出す」チカラです。  
立場を越えて、つながる。前例を越えて、試してみる。その場限りを越えて、未来へつなげる。  
この“小さな一歩”が、まちを動かします。

こうして、[人を惹きつけるまち](#)へ。[つながり、支えあう地域](#)へ。そして、[進化し続ける区役所](#)へ。

八幡西区X方針 課題一覧【『日本一コンフォートな区役所』のアップデート】



八幡西区X方針 課題一覧【3つのアクション】

分類	概要	取組
人を惹きつけるまち	人の流れと関心を生み出し、まちに新たな動きをつくります。地域のポテンシャルを掛け合わせながら、このまちに訪れ、関わり、根づいていくきっかけを広げていきます。	A1 地域と仕掛ける再生のトリガー B1 マッチングではぐくむ定着のサイクル
支えあう地域	地域で関わる人を増やし、役割とつながりが広がる循環を生み出します。多様な主体の強みを生かしながら、関わりと支え合いの中で、地域の課題を一つひとつ紐解いていきます。	B2 マッチングではぐくむ地域の担い手 B3 見える化と共有で動かす地域のお困りごと
進化し続ける区役所	内部から変わり、外とつながることで、区民の生活を支える基盤をより整えます。区民の声に耳を傾け、職員の主体的な挑戦を重ねながら、区役所の価値を高めていきます。	A2 やさしさとデジタルで整えるまちの窓口 A3 まるごと楽しむコムシティのアップデート A4 挑戦をチカラにしなやかな人財デザイン

課題領域 A

No.	政策分野	課題名	課題に対する取組
1	地域社会	(新) 地域と仕掛ける 再生のトリガー	・黒崎再生の原動力となる 「クロサキスイッチ」を地域と共に展開
2	市民サービス 向上	やさしさとデジタルで整える まちの窓口	・区民・職員の声とDX・AIで、 誰もが利用しやすい区役所の「窓口環境」を 整備
3	官民連携 市民サービス 向上	まるごと楽しむ コムシティのアップデート	・施設内セクターが連携した情報発信や イベントの実施 ・利用者が求める機能の拡充
4	人材育成	挑戦をチカラに しなやかな人財デザイン	・プラチナ・ZPTで挑戦する職員を後押し ・多様な研修を通じた他業務への参画と 職員が成長する機会の付与

課題領域 B

No.	政策分野	課題名	課題に対する取組
1	官民連携 地域社会	(新) マッチングではぐくむ 定着のサイクル	・企業×学生による、 産業人材の確保と定着
2	官民連携 地域社会	(新) マッチングではぐくむ 地域の担い手	・地域×企業、地域×学生による、 地域コミュニティの活性化
3	地域社会	(新) 見える化と共有で動かす 地域のお困りごと	・地域課題を見える化・共有する 「(仮称)八幡西区版地域カルテ」の構築に よる地域課題の解決

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
- ・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

## 4 課題

### 課題A（1）地域と仕掛ける 再生のトリガー

【政策分野：地域社会】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：高】

#### ② 課題の内容

- ・ 「クロサキスイッチ」の開催とも相まって、まちには人が集まり、交流が広がりつつありますが、こうした動きは特定の機会にとどまっています。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 「日本一コンフォートな区役所」を掲げた取組に対して区民の共感が広がり、地域や商店街、企業も関わる中で、まちが一体となってにぎわいを生み出す動きが生まれてきました。
- ・ 一方で、まち全体に人の流れを持続的に生み出す段階には至っていません。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- ・ 関係局が連携して開催する「クロサキスイッチ」などを通じて、人の流れを継続的に生み出し、まちなかににぎわいと活力を広げていきます。
- ・ こうした積み重ねによりまちへのアテンションを集めながら、来訪や関わりを消費や投資へとつなげ、地域の価値を **高めていきます**。

#### ⑤ 令和8年度の取組内容（四半期間隔）

- ・ 地域や商店街、企業との **パートナーシップ** を深めながら、黒崎再生の原動力となるトリガーの一つである「クロサキスイッチ」で、地元の参加や回遊性を高める仕掛けを組み合わせることにより、人の流れと関わりを生み出していきます。さらに、まちのポテンシャルを“見える化”しながら、地域への誇りや愛着を育み、「住み続けたい」と感じられる黒崎の未来へとつなげていきます。

	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)
クロサキスイッチ	● 実施・検討	→ ● 実施	→ ● 効果・検証	→

## 4 課題

### 課題A（2）やさしさとデジタルで整える まちの窓口 【政策分野：市民サービス向上】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：高】

#### ② 課題の内容

- ・ 八幡西区役所が入居するコムシティには、子どもから高齢者、障害者、外国人向けの施設が集積しており、多様なニーズを持つ利用者が訪れています。
- ・ また、各窓口において特定の時期に手続きが集中し、その対応に時間を要する状況が続いています。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 令和6年度から、案内サインの見直しや待合・相談スペースの改善など、窓口環境の整備を進めてきましたが、手続きの分かりやすさや案内方法など、ソフト面での対応にはなお改善の余地があります。
- ・ また、市内一の人口を抱える中、利用者数の多さにより窓口の混雑や待ち時間が発生しており、これに伴い職員負担も増加しています。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- ・ 年齢や国籍、障害の有無に関わらず、一人ひとりのニーズに応じて、誰もが快適に、安心して手続きや相談ができる区民サービスを**守ります**。

#### ⑤ 令和8年度の実行内容（四半期間隔）

- ・ これまで進めてきた窓口環境の改善をベースに、ホスピタリティあふれる案内や相談対応の充実に取り組みます。
- ・ あわせて、DX・AIの活用について、**プロトタイプ**として小さく試しながら改善を重ねることで、利便性の向上と業務効率化を実現します。

	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)	第4四半期 (1~3月)
窓口環境の整備	● 課題の整理	● 検証・改善策検討着手・実施	→	
DX・AIの推進	● 課題の整理	● DX化の検討・実施	→	
			● AI研修実施	● 横展開の検討

## 4 課題

### 課題A（3）まるごと楽しむ コムシティのアップデート 【政策分野：官民連携、市民サービス向上】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：低】

#### ② 課題の内容

- ・ コムシティは、交通の利便性と多様な行政機能、利便施設を備える地域の拠点として役割を果たしてきましたが、マンション建設等により人口が増加する中、その重要性はますます高まっています。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 令和7年度に、横断連携の枠組みとして「コムシティつなぐプロジェクト」を立ち上げ、連携イベントの開催やサービス改善など、利用者目線での取組が広がる中、施設の活用やにぎわい創出につながる動きが生まれつつあります。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- ・ これからも利用者や関係事業者のニーズを丁寧に把握しながら、取組を一層広げていくことで、地域の拠点としての役割をさらに **高めていきます**。

#### ⑤ 令和8年度取組内容（四半期間隔）

- ・ 施設内の官民セクターとの **パートナーシップ**（コムシティつなぐプロジェクト）を基盤に、連携イベント等に取り組むことで、施設全体の魅力とにぎわい、そして利用者目線での利便性と使いやすさを高めます。

	第1 四半期 (4~6月)	第2 四半期 (7~9月)	第3 四半期 (10~12月)	第4 四半期 (1~3月)
連携イベント	● ニーズの把握・意見徴収			
		● 課題の共有(利用者・ビル職員)		
			● 企画立案 →	● イベント等実施
機能拡充	● ニーズの把握・意見徴収			
		● 在り方検討 →	● 企画立案 →	● 取組実施

## 4 課題

### 課題A（4）挑戦をチカラに しなやかな人財デザイン

【政策分野：人材育成】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：低】

#### ② 課題の内容

- 区役所では、縦割りの業務分担により、能力開発の機会が担当業務内にとどまりやすい状況です。

#### ③ 課題の背景や現状

- 八幡西区役所では、令和7年度から独自のZプロジェクト（八幡西ZPT）やプラチナ市役所プロジェクト（プラチナ・ウエスト）、庁内公募制度などを立ち上げ、職員が業務の枠を越えてチャレンジし、その能力を高める取組を進めています。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- こうしたチャレンジを通じて若手職員の成長を促すとともに、ベテラン・中堅職員の知見も生かし、職員一人ひとりが実践を通じて能力を高めることで、持続可能な行政運営基盤を創ります。

#### ⑤ 令和8年度取組内容（四半期間隔）

- 八幡西ZPTやプラチナ・ウエストを通じて、職員が業務の枠を越えて実践を重ね、地域の新たな価値の創出や業務改善に取り組みます。
- また、庁内公募制度や派遣プログラム等により若手職員の挑戦機会を広げるとともに、ベテラン・中堅職員の知見を生かした育成を進めることで、実践と成長がサステナブルに循環する環境を整えます。

	第1 四半期 (4~6月)	第2 四半期 (7~9月)	第3 四半期 (10~12月)	第4 四半期 (1~3月)
八幡西ZPT	● 設置→役割決定	● SNS等による発信	→	→
		● 地域での講義活動	→	→
		● 企画検討	● 新イベントの実施	→
プラチナ・ウエスト	● 設置→役割決定	● 業務改善の推進	→	→
		● 地域カルテ検討	→	→
		● 施設内横断連携推進	→	→
八幡西区独自の 職員育成制度	● 制度・基準の検討	● 職員育成の実践	→	→ ● 効果検証

## 4 課題

### 課題B（1）マッチングではぐぐむ 定着のサイクル

【政策分野：官民連携、地域社会】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：低】

#### ② 課題の内容

- ・ 2年連続で社会動態増を達成している流れをこれからも続けていくためには、学生の地元就職と定着の促進が欠かせません。
- ・ また、「稼げるまち」の実現に向けては、企業活動を支え続ける人材の確保・育成が求められています。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 北九州市の地元就職率は20%程度にとどまっており、八幡西区には、市内大学生の3割超が暮らし、学んでいます。
- ・ 一方で、区内には、製造業をはじめ多様な企業が立地しているものの、人材の獲得競争が激しさを増しており、企業活動を継続していく上で大きな課題となっています。
- ・ 区内の学生の多くが文系であるのに対し、企業は理工系人材を求める傾向が強く、一見隔たりがあるものの、関わり方次第で接点を見いだせる余地があります。

#### ④ 目指す成果 – 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） –

- ・ 学生と企業の個別ニーズを踏まえ関係性を育むことで、これまで見ていなかった接点が具体的な選択肢となり、学生がこのまちで働く流れを広げていきます。
- ・ 企業にとっても、人材確保の幅と質を高め、地域の「稼ぐチカラ」の底上げにつながっていきます。
- ・ こうした積み重ねにより、持続的に発展する産業基盤を支える人材が地域の中で巡り、活躍し続ける仕組みを創ります。

#### ⑤ 令和8年度の実施内容（四半期間隔）

- ・ 大学と企業の個別ニーズを丁寧に掘り下げ、「できること」「求めること」を見える化しながら、新たな接点を引き出すマッチングを仕掛けていきます。
- ・ あわせて、関わり方や役割を工夫することで文系・理工系の枠を越えた関係づくりを試行し、就職や人材育成につながる具体的な形へとつなげていきます。
- ・ これらの取組をプロトタイプとして小さく試しながら検証と改善を重ね、実践モデルとして磨き上げることで、地域の中でサステナブルに回る仕組みへと展開していきます。

	第1 四半期 (4～6月)	第2 四半期 (7～9月)	第3 四半期 (10～12月)	第4 四半期 (1～3月)
産業人材 マッチング	● 制度検討	● 企業と学生の マッチング	→	● 効果検証 今後の事業実施検討

## 4 課題

### 課題B（2）マッチングではぐぐむ 地域の担い手

【政策分野：官民連携、地域社会】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：高】

#### ② 課題の内容

- ・ 少子高齢化やライフスタイルの変化が重なり、自治会加入率は低下し、担い手不足の中で地域活動の持続が難しくなりつつあります。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 地域のつながりが希薄化する中、地域活動は防犯や見守りなど多岐にわたり、担い手の確保が追いつかず、特定の人に負担が偏る状況が生まれています。
- ・ 一方で、区内には数多くの企業や学生といった大きなポテンシャルが存在するものの、これまで地域との関わりは限られており、その力が十分に生かされていません。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- ・ 地域に加え、企業や学生といった多様なステークホルダーの関わりを広げることで、地域活動に参加する主体の裾野を拡大し、市民センターを中心とした地域活動の活性化につなげていきます。
- ・ 企業は地域活動への参画、学生は地域との関わりを通じた地元への愛着の醸成へとつなげることで、多様な関わり方が地域の中に生まれていきます。
- ・ こうした積み重ねにより、市民センターに人と人とが自然に集い、関わり合うサードプレイスとして機能し、担い手が生まれ続ける仕組みを創ります。

#### ⑤ 令和8年度の実施内容（四半期間隔）

- ・ 区役所がハブとなり、市民センターを核とした地域と企業・学生とのパートナーシップを深め、企業や学生の強みや関心と地域のニーズをマッチングしながら、地域活動への参画機会を創出していきます。
- ・ こうした取組を通じて、「北九州市地域コミュニティビジョン」に示す市民センターのサードプレイス化に向けたプロトタイプとして先行モデルを創出し、担い手とつながりが地域の中でサステナブルに循環する仕組みへと発展させます。

	第1 四半期 (4～6月)	第2 四半期 (7～9月)	第3 四半期 (10～12月)	第4 四半期 (1～3月)
市民センターの 拠点化	● 制度検討 ● 事業募集 → 採択	● 事業実施		● 効果検証
人材マッチング	● 地域と企業・学校とのマッチング			● 横展開の検討

## 4 課題

### 課題B（3）見える化と共有で動かす 地域のお困りごと

【政策分野：地域社会】

#### ① インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス

【インパクト：高】 【緊急度：低】

#### ② 課題の内容

- ・ 区役所では、地域情報が縦割りの中で個別に最適化されており、分野を越えた課題把握が難しい状況です。

#### ③ 課題の背景や現状

- ・ 日々の暮らしの中で地域から寄せられる声は分野をまたいで現れることがありますが、部署ごとに整理されるだけで、自らの担当外の情報は関係部署と十分に共有できていない状況にあります。
- ・ そのため、分散した情報を組織横断的に結び付けることができず、複合的な地域課題を面的に捉えた対応につながっていません。

#### ④ 目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感） -

- ・ これまで部署ごとに分散していた情報を横断的に捉え直し、地域の情報や課題を見える化・共有することで、課題の捉え方や解決の組み立て方そのものを、部署中心から地域中心へと転換していきます。
- ・ これまで十分に対応できていなかった声に向き合い、解決へとつなげるとともに、関係部署が同じ認識で連携して動くことで対応の質と精度を高めることで、地域の実情に即したきめ細かな支援を実現し、区民の暮らしの安心を**守ります**。

#### ⑤ 令和8年度の取組内容（四半期間隔）

- ・ 「北九州市地域コミュニティビジョン」に示す地域カルテの整備と歩調を合わせながら、八幡西区の地域情報や課題を見える化・共有する**プロトタイプ**（先行モデル）として「（仮称）八幡西区版地域カルテ -クロスノート-を整備します。
- ・ 部署が交差（連携）することで、情報が交差（共有）し、打ち手が交差（複合化）する——こうした流れを通じて、地域課題の解決へとつなげていきます。

	第1 四半期 (4~6月)	第2 四半期 (7~9月)	第3 四半期 (10~12月)	第4 四半期 (1~3月)
地域カルテの策定	● 基準検討 課題整理	● 地域カルテ 試行運用	→	● 効果検証 ● 本庁部署への提案